

第5回長期振興計画策定市民委員会

日 時	令和8年1月16日(金) 18時30分～19時42分	場 所	第3委員会室
議題・案件等	1. 開会 2. 議事 (1) 基本計画案について (2) その他 3. その他		
会議資料	政策体系表 第7次長期振興計画前期基本計画(案)		
協議内容			
<p>○協議経過</p> <p>■長期振興計画基本計画案について</p> <p>事務局から資料により政策体系表、基本計画案について説明後、各部会にて協議</p> <p>委員) 大筋は記載のとおりだと思うが、輸送コストや人材不足に関して、もう少し踏み込んだ具体策等があればと考える。どの分野もそうだと思うが。</p> <p>委員) 外国人の受入体制について、受け入れる側で負担しなければならない費用がある。個人事業主ではなかなか厳しいため、外国人を雇用しやすいような環境を整えてもらえないか。例えば漁業では、もじゃこ漁やきびなご漁などは期間が2か月から半年程度あるが、この期間に外国人を活用できれば漁業の仕事もある程度上手いくのではないかと考えている。ただし、初期費用がものすごくかかるので漁業者がもっと外国人を雇いやすくなるような取組や方向性を示していただければありがたい。</p> <p>委員) 38ページ、公助の強化についてであるが、指標の「非常用食料の備蓄充足率」は基準値と目標値が100%のものを指標とする必要があるのか。</p> <p>85ページ、限界集落という言葉は市民の目に触れる計画の中で記載するのは好ましくないのではないかと。限界集落と聞くと、自分たちの集落は限界集落なんだ、住んでいることもマイナスになるような意識が付いてしまうと思われる。自治会を維持することが難しくなっている集落というような表現にした方が良いのではないかと。</p> <p>98ページ、学校教育の充実の指標「不登校の小・中学校児童生徒数の全体数における割合」の目標値が0%となっているが、0%を求めるのはしんどいと思う。学校に行きたいと思う子どもたちの不登校の割合を0%にするのは十分良いと思うが、他の選択肢も出てきている中で0%を目指してしまうと、不登校となっている1%の子どもたちが悪くなってしまいう指標になっていないか。</p> <p>121ページ、医療・介護・福祉の担い手不足は顕著で、2040年に向けても減ってくる25%足りないという推計になっている。25%足りないということは、4日に1日は病院、介護施設、福祉施設が休みを取らないといけない状況になってくるということ。農業や林業のように、担い手の確保に関する基本事業があった方が担い手不足に対して取り組めるのではないかと。</p>			

か。

122ページ、国保税収納率の目標値がなぜ下がるのかが気になる。

124ページ、ICT機器の導入率の指標が基準値5.9%から目標値90.0%となっている一方で人材充足率は28%から40%以上となっている。令和11年まで取り組んでも半分まで満たないことが本当に正しいのか。ICT機器は5.9%から90%まで目指そうとしているのであれば、人材充足率も目標は上にあげるべきではないか。令和11年度においても半分以上は人材が不足している状況をつくると言っているのが果たして正しいと思うのか。

129ページ、新規の医療人材確保者数を100人増やすのに介護分野の人材充足率は40%の目標で良いのか。

137、138ページ、福祉分野の現状と課題のところに、人材不足が深刻化している、1番の問題であると明確に書かれている。同じような書き方を医療・介護分野でもすべきではないか。ただし、福祉分野の指標に人材不足に関するものが設定されていないので、設定すべきではないか。

委員) スマート農業などを言う割には通信網が悪すぎて携帯電話すら繋がらない場所がある。畑から電話しようとしても繋がらない状況であるのにスマート農業などの新たなものに取り組みというのは厳しいような気がする。機器を使えるように整備するということを謳いながら、スマート農業を進めていかないといけないのではないか。圏外の場所が多いと感じている。通信網に関する記載はあるか。

事務局) 通信網に関する記載はない。

委員) 防災にも関係してくる。色々な分野にもつながってくるので基盤整備をしっかりとしてほしい。

委員) 介護分野にしても携帯の電波が届きさえすれば見守りの水準が格段に上がる。全ての見守りサービス機器がインターネットに接続するタイプとなっており、冷蔵庫から麦茶を取ってコップに次いで冷蔵庫に戻すと何グラム飲んだかがデータで分かるようになっている。水分摂取量などが全てロボットでできるようになっている。これから独居高齢者や子どもがいない家などにも全て電波が必要になってくる。高齢者の家に光回線を引くのは難しいがドコモルーターを設置することは可能なので、それさえできれば、見守りのクオリティは上がるため、通信網の整備は必要だと思う。

委員) 限界集落に代わる良い表現を考えたら良いのではないか。

委員) NPO法人こすもでは、これまで中高生に関する不登校支援はあったが、今年度から小学生の支援をするようになった。行政からの依頼があって始めたものだが、不登校を0%にするのではなく、その代わりに行ける場所がある、取りこぼされている子どもたちがいないということが分かるような指標があれば良いのではないか。子どもたちの問題も難しくなっている中で、これから不登校は減っていくよりは増えていくのではないかと現場で働いている身としては感じている。

委員) 「学びたい場所に行けない子どもの割合が0%」という指標であれば良いと思う。

委員) 不登校という言葉も今後使ったらいけなくなってくるのではないか。現在、古田中学校の跡地はそういった子どもたちの受け皿となる場所にできないか模索中である。この指標を見ると学校に絶対行かないといけなく思ってしまう。今の時代、子どもたちよりも先生が学

校に来れない状況が起きている。

事務局) いただいた意見の中には各課と協議を行って、計画を修正するかどうかを検討させていただきたいが、国保税収納率の指標に関する指摘については、県の運営指針の目標値に合せているため、現状値より下がっているものとなっている。

委員) せっかく97.66%納めてくれているのに97.00%とする必要がないのでは。せめて同じにするなら分かるが。

委員) 市の長期振興計画なのだから、合わせる必要はないのではないかと。これまでそうしてきているからおかしい。

委員) 現状、県より低いということであれば合わせるのはいいと思うが、それより高いものを合わせる必要はないのではないかと。

委員) 県に合わせないといけない項目があるのであれば外した方がいい。西之表市の計画なのだから。

委員) 馬毛島の自衛隊基地ができることで本来は西之表市が一番強靱化されなければならないのではないかと。国土強靱化とよく言うが、間近で何か起きそうな基地ができることによって、西之表市でも安全のためにこういったことをするのだと、地下シェルターを作るとは言わないが、災害の時に使える良い避難所ができればと思う。

事務局) 基本構想の中に、戦略プロジェクトで防災危機管理機能の強化をテーマとして掲げているが、その中で国民保護計画に基づく地下シェルターの設置の検討について記載している。

避難体制や受援体制の強化なども進めていく予定としている。

委員) 大字地域の道を整備してほしいとよく聞くが、先日市街地を歩いたところ、市街地の方こそ道が悪いと感じたところ。市街地の道路を整備した方がいいのではないかと。津波などがきたときも避難しないといけないのは市街地の人たちだと思う。そういったところも踏まえて、インフラ整備を見直していった方がいいと思う。

#### ■その他

事務局から以下の点について説明

- ・今回の意見に対する回答を文書で送付するとともに、計画修正の有無についても併せて報告する。
- ・それをもってパブリックコメントを実施し、市民意見の把握を行う。
- ・パブリックコメント等により、大幅な修正があれば改めて参集いただき審議いただくが、軽微な修正にとどまれば今回が最後の市民委員会となる。

上記に対して委員からの意見はなし。